

## 巻頭言

### 新しい価値の創造

CNCP 副代表理事  
(NPO シビルまちづくりステーション 理事長)  
花村 義久



今年の6月末から一週間余りギリシャで「国際VRシンポジウム 第6回サマーワークショップ イン ギリシャ」が開催された。バーチャルリアリティVR関連の教授や専門家の講演、若手エンジニアのワークショップに合わせ、VR作品の国際コンペの予備審査などが行われ、私はその審査員として参加した。これは秋に行われるこのコンペ（バーチャルデザインワールドカップ VDWC）の公開審査の事前準備として行われ、審査員は実行委員長の慶応義塾大学教授、ハーバード大、シンガポール大他大学の教授が中心である。

VRは新しい分野であるが、最近では自動車、医療などいろいろな産業分野で実用化し出している。その萌芽は、1980年ごろからコンピュータ関連基礎技術、産業別応用技術面ですであつたが、実用的にはアニメの分野で発展を遂げた。日本の建設分野では、幅広いコンピュータ活用の中で、VRはまちづくりでの合意形成のツールとして生まれ、今では都市計画の有効な手段と考えられるようになった。この技術は、広域な周辺技術がかかわり合う基盤技術であるために応用範囲が広く、ここで開発されたシステムは建設産業から自動車産業をはじめ他産業へ国際的に拡散しようとしている。

VDWCは学生が対象で、都市計画がテーマとして与えられることが多い。ここでは、クラウドコンピューティングで世界最高スピード、容量は無制限、このクラウドで個人のパソコンで何時でも何処でも誰でも自由に使える環境が与えられる。基本ソフトは、VRツール、協調設計ツール、解析、シミュレーション、各種アプリケーションソフトである。ここで与えられる最高の賞はワールドカップ賞、他に審査員特別賞と云うのがあり、私はシビルデザイン賞として、シビルエンジニアリングの立場と市民生活の立場両面から優れているものに与えることにしている。作品の賞の評価基準は、VRの活用度、論理性・技術、審美性・オリジナリティ、プレゼンテーション技術などであるが、私はさらに基本的な見方としてこのような最新のテクノロジーと自由な発想が活かせる作品作成環境の中から「新しい価値の創造」が実現しているか、と云うことに着眼している。

現在企業が飛躍するにはイノベーションが重要性であるとの指摘があるが、この根幹をなすものは顧客価値創造など新しい価値の創造である。我々社会貢献を使命とするものにも組織の発展にはイノベーションが必要であるが、ここでは社会に大きな影響を与えるような立派なことに対する価値創造が求められる。私が企業セクターから社会セクターの世界に入った時に、価値観の転換の必要性を感じた。社会が求める価値観、自分にとって大事な価値観、そこに存在する価値は「新しい価値の創造」によってより魅力あるものに高められて行くのではないだろうか、と思うものである。